



「善循環の輪質疑応答エッセンス集」(広報担当 大山)

「善循環の輪 福岡南部の集い in 柳川」から

◎水槽の管理について

<質問要約>

水槽で飼っている魚のフンのアンモニア臭が気になりますが、これを消すにはどのようにすればよいのでしょうか。

<比嘉教授からのコメント>

水槽の水量の1000分の1のEM活性液を週に1回ずつ入れると臭いは消えます。EMを入れるとフンが腐敗しないのでアンモニアは発生しません。発酵分解されアミノ酸になりエサとなって循環します。水槽の中に生態系が出来上がるのです。

タイ洪水 EM団子活用

世界各地で自然災害が多発しております。被災された方々に謹んでお見舞い申し上げます。

タイの大洪水では、汚水で悪化した衛生環境を改善するため、EM団子が活用されており、この模様は新聞・テレビなど多くのメディアに取り上げられています。

写真は11月10日付、琉球新報朝刊です。

また、インターネットをご覧になれる方は、ロイター提供の記事において、インラック首相がEM団子を投げる写真を見ることができます。

<http://news.yahoo.com/photos/thailands-prime-minister-yingluck-shinawatra-shows-micro-organisms-photo-065534584.html>へアクセスください。



EM団子を作るボランティアの高校生=8日、バンコク

汚水浄化に効果

【バンコク共同】大洪水による被害が続くタイで、日本から派遣された専門家らが首都バンコクの浄水場の水質管理を支援したり、琉球大の研究者が開発した有用微生物群(EM)が汚水対策に活用されるなど、日本の技術への評価が高まっている。日本人も多く住むチャオプ

日本は30年にわたり、浄水

無料配布 「被災者救われている」

被災者救われている」と語り、タイ人職員に助言を

場整備や技術訓練など首都の水道事業を支援している。同企業団の林信吾さんは「技術は日本のレベルと変わらない」と評価。9日に同浄水場を視察したインラック首相は「ありがたく思う」と日本の支援に謝意を示した。

長期滞留する汚水による健康被害が問題化する被災地では、琉球大の比嘉照夫名誉教授が開発したEMが効果を発揮。乳酸菌、酵母などを主体とした微生物培養液にもみ殻などを混ぜ、テニスボール大の団子状にしたものを腐敗物がたまった水に投入。微生物の分解作用で悪臭が消えるなどの浄化効果があるという。

バンコクでは市民ボランティアが連日、各地でEM団子作りを精を出している。「1日約4時間、50個以上は作っている」と女子高生のケウパインさん(17)。

ボランティアは大量のEM団子をトラックやボートに積み、被災地に無料で配布。大学生のラタボンさん(20)は「日本の優れた技術のおかげで、汚水の中で暮らす多くの被災者が救われている」と語り、

◇◇◇◇◇ ご協力のお願い ◇◇◇◇◇

Uネットでは、行政が主体もしくは支援しているEMによる水系浄化活動の実態調査を行っています。県や市町村が予算化した浄化活動や、各種助成・補助事業、公募基金などでEMを用いた浄化活動を実施されている方、またはご存知の方は、Uネット事務局へご連絡くださいますようお願い申し上げます。

◇◇◇◇◇ お知らせ ◇◇◇◇◇

1. 比嘉教授の最新著書「シントロピーの法則」好評発売中です。発送が週一回となっているため、ご注文からお届けまでに7~10日ほど頂いております。ご了承くださいませようお願い申し上げます。
2. 「善循環の輪ふくい集い in 敦賀」、12月10日(土)13時~、ニューサンピア敦賀で開催いたします。詳細はUネット事務局へお尋ねください。
3. 「EM活用交流会」、12月3日(土)13時~、三重県総合文化センター・多目的ホール(津市)で開催されます。参加費500円。詳しくは大会実行委員会(059-229-2964)へ。